



オリジナルドラマCD

『ぷっちょへんずあっぷ』

決定稿

脚本・立川譲

□ クイーンデキム・カウンター

電話が鳴る。

受話器を取るデキム。

デキム 「はい、クイーンデキムです。

ノーナさん、おはようございます。

え？お客様ですか？ …はい、かしこまりました」

電話を切るデキム。

デキム 「……………」

黒髪の女 「お客さん？」

デキム 「はい。ただ……妙ですね」

黒髪の女 「またあ？しよっちゅうそんな事言ってるじゃない」

デキム 「今日は沢山いらっしやるそうです」

黒髪の女 「え？」

□ クイーンデキム・エレベーターホール

到着音がして、扉が開く。

□ クイーンデキム・カウンター

廊下を駆けてくるマユ。

マユ 「ふお〜〜ひつろーい！」

ギンティ 「うるせえ！ さわぐな！」

黒髪の女 「え？ お客さんって…」

デキム 「いらっしやいませ、クイーンデキムへようこそ。

バーテンダーのデキムと申します」

マユ 「うん、知ってるよ。この前はライブに来てくれて
ありがとう！」

デキム 「こちらこそ、ありがとうございました。

クロスハートアタック、いい音楽ですね」

マユ 「ねー、CHAサイコーでしょ？」

黒髪の女 「マユちゃん、いらっしやい。ギンティさんも」

ギンティ 「人間じゃねえんだ、さん付けはやめろ」

マユ 「うわ〜感じる。ちよつとは見習ったら？」

ギンティ 「なんだと？」

マユ 「接客業の心得がなってない」

黒髪の女 「あはは」

ギンティ 「なにワケの分かんねえ事を言ってるんだお前は。

それに接客業じゃねえ！裁定業だ」

無視して言いたい事を言うマユ。

マユ 「アタシもこんなお洒落な所でバイトしたいーい」

ギンティ 「バイト…だど？」

マユ 「家具とかも凝ってて、どっかのコケシとは、全然ち

がーう」

ギンティ 「て〜め〜え」

マユ 「(被せ気味) あっ！ クラゲー」

走っていくマユ。

ギンティ 「水槽の中に突っ込んでしまっか」

黒髪の女 「賑やかでいいじゃない。お客さん来てないと、

ココって凄く静かだから。ねえ？」

デキム 「はい。とても新鮮ですね」

ギンティ 「(呆れて) なんだこのヌルイ空気は……」

□ クイーンデキム・エレベーターホール

到着音がして、扉が開く。

□ クイーンデキム・カウンター

やってくるノーナとクラヴィス

ノーナ 「お待たせー」

デキム 「ノーナさん、お久しぶりです。クラヴィスも」

クラヴィス 「うん。久しぶりー」

ノーナ 「さあ、まだ揃ってないけど始めるわよ」

デキム 「え？」

| | |
|---|---|
| □ | <p>情報部</p> <p>黒髪の女 「何するんですか？」</p> <p>ノーナ 「皆で仲良く、撮影よ」</p> <p>一同のリアクション</p> |
| □ | <p>時間経過。</p> <p>記憶の板が流れるベルトコンベアの音。</p> <p>通信している2人。</p> <p>クイーン 「準備、できたわよ」</p> <p>ノーナ 「いそがしい所にごめんね」</p> <p>クイーン 「ほんとよ、あとでお酒ごちそうしてよね」</p> <p>ノーナ 「うん分かってる。じゃあ、よろしく」</p> <p>クイーン 「はーい。これから皆に記憶を送るわね。」</p> <p>ただ今回は死者の記憶じゃなくて、音楽よ。</p> <p>やったらノリノリの」</p> <p>クイーンデキム・カウンター</p> <p>一同に転送される音楽。</p> <p>転送の音。</p> <p>ざわめく一同。</p> |

ノーナ 「届いたわね。」

「これからこの曲に合わせて皆で遊ぶわよ」

黒髪の女 「え？」

マユ 「遊ぶ？」

ノーナ 「ゲームしたり〜ダンスしたり〜」

ギンティ 「はあっ!? なんてオレがそんなこと」

ギンティをこづくノーナ。

ノーナ 「うるさい」

ギンティ 「ぐっ」

クラヴィス 「アハハ、楽しそうでいいじゃん」

黒髪の女 「うん、そうね」

デキム 「ぶっちょへんずあつぷ、ですね」

マユ 「発音ヤバイんだけど（笑）」

黒髪の女 「あはは」

マユ 「どういう意味だっけ？」

デキム 「英語は苦手です」

クラヴィス 「手を上げろって意味だよ」

マユ 「ほ〜」

ノーナ 「さあ、さっさと始めるわよ。」

まずは、このカウンターからね。デキム、お手伝い

さん、マユ、ギンティの順に並んで」

デキム 「かしこまりました」

ノーナ 「んで親指をこう口に近づけて。キレイくやってよ」

黒髪の女 「え……はずかしい」

デキム 「かしこまりました」

ギンテイ 「おいおいおい」

ノーナ 「命令よ。文句あんの？」

ギンテイ 「く………」

クラヴィス 「簡単じゃんこうすればいいんだよっ！」

ポーズをとるクラヴィス。

マユ 「わっ、キレイがいい」

ギンテイ 「じゃあお前かわれ」

ノーナにこづかれるギンテイ。

ノーナ 「ふざけんな。アタシの計画を乱すのは、許さないわ

よ。はやくして」

ギンテイ 「くそ……」

場所に並ぶ4人。

ノーナ 「じゃあ、いくわよ」。

クラヴィス、カメラの準備はいい？」

クラヴィス 「大丈夫です」

カメラの駆動音。

× × ×
ナレーション (クラヴィスの声)

カット25

× × ×
ノーナ 「せーの！」

ポーズをとる4人。

クラヴィス 「アハハ」

ノーナ 「あー、言い忘れてたけど、女の子2人とも笑顔は
ダメ。セクシーな感じをお願い。」

黒髪の女 「え？ 自信ないなあ。セクシーか……」

デキム 「せくしー…ですか？」

マユ 「こんな感じ？ (セクシーに)」

ノーナ 「そうそう」

ギンティ 「ちっ」

ノーナ 「じゃあテイク2ね。せーの！」

再びポーズをとる4人。

ノーナ 「よし、オッケー」

拍手するクラヴィス。

クラヴィス 「おお〜〜決まってる」

マユ・女 「やった〜」

デキム 「(安心)」

ギンティ 「はぁ〜〜……」

ノーナ 「じゃあガンガンいくわよー！」

× × ×

ナレーション (クラヴィスの声)

カット4・5・6

× × ×

黒髪の女 「こうですか？」

ノーナ 「そうそう、そんな感じでカウンターに座って。

デキムはカクテル作って」

デキム 「何を作りましょう」

ノーナ 「撮影用だから何でもいいわよ」

デキム 「何でもと言われましても」

黒髪の女 「せっかくだから美味しいのがいいな」

デキム 「かしこまりました」

シェイカーを振るデキム。

完成するカクテル。

黒髪の女 「いただきまーす」

カクテルを飲む女。

黒髪の女 「ん〜！ おいしい。なんてお酒？」

デキム 「メント……いえ、秘密です」

黒髪の女 「なんで？ (不機嫌)」

デキム 「オリジナルカクテルなので、まだ名前がありません」

黒髪の女 「じゃあ始めっから、そう言っつてよ」

デキム 「申し訳ありません」

黒髪の女 「デキムは飲まないの？」

デキム 「私はカクテルが好みではないのです。いつもコレを飲んでます」

ロックグラスの氷の音。

黒髪の女 「ああ、ウイスキー??」

デキム 「ウーロン茶です」

カクテルを吹き出す女。

黒髪の女 「ごほつごほつ。バーテンダーのくせにお酒が飲めないの？」

デキム 「いえ、ジョークです」

黒髪の女 「……はあ? (不機嫌)」

※続きは「デス・パレード」Blu-ray BOX【完全限定生産版】にて。